

にしゃんた

羽衣国際大学教授・タレント・ダイバーシティスピーカー（多様性の語り部）・共笑®提唱者

■略歴■

親日国スリランカ、世界遺産キャンディ市生まれ。高校生の時に留学のため、父が家を担保に借りた7万円と片道切符を手に来日、第二の人生がスタート。

来日1年で、日本語能力試験1級試験に合格し、留学生第一号となる新聞奨学生をしながら文武両道の大学生生活を送る。在学中は全日本空手道連盟公認四段、公認指導員や審判員資格を取得。また多数の弁論大会で優勝し“スピコン荒らし”とあだ名がつく。

立命館大学経営学部を学部総代で卒業。名城大学大学院に進み商学修士号、龍谷大学大学院で経済学修士号と経済学(民際学)博士号を取得。日本国籍取得。出家得度。

タレント活動としては、近未来の日本を描いた映画『地球のヘソ』で主演。ワッハ上方で高座デビューし、「初代社会人落語日本一決定戦」準優勝で異色の落語家として注目され、フジテレビ「ペケポン」などで人気となる。

大学教授、タレント、落語家、随筆家、講演家、空手家、子育て父、スリランカ人など多くの顔をもち合わせ、その意味でミスターダイバーシティなどと言われることも。「ダイバーシティ能力検定」ファウンダー。

株式会社グローバルコンテンツの代表取締役、山口県立大学国際文化学部准教授などを経て、現在は主に、国際大学現代社会学部教授として務める傍ら、テレビ・ラジオなどで活躍。情報・報道番組のコメンテーターからバラエティ番組まで幅広く、Newsweek やYahoo!ニュースなどの書き手でもある。

さらには全国各地で「違いを楽しみ、力に変える」などをテーマに「ダイバーシティ・スピーカー（多様性の語り部）」として、「ダイバーシティ&インクルージョン」「国際理解・国際交流・多文化共生」「人権・平和」「SDGs」「文化教養」などの分野における教育・啓発などの講演活動を行っている。「共笑®」の提唱者である。

ボランティア活動として、献血推進にも積極的に関与しており、毎年、日本赤十字社の「はたちの献血」キャンペーンと連携したイベントを、教え子たちと協力して開催しています。

■主な出演テレビ・ラジオ■

・「世界ふしぎ発見!」・「Nスタ」・「クローズアップ現代」・「視点・論点」・「Qさま!」・「世界一受けたい授業」・「笑っていいとも」・「ラジオ深夜便」・「テレビ寺子屋」・「バイキング」・「ネプリーグ」・「ペケ×ポン」・「知りたがり!」・「Mr.サンデー」他多数

■著書■

・『日本で知った『幸せ』の値段～無一文の留学生が、大学准教授になるまで～』（講談社）、『留学生が愛した国・日本』（現代書館）、『ブッタと歩く神秘の国 スリランカ』（キノブックス）、『日本的経営は海を越えられたか!』（ふくろう出版）、『ちがうからたのしい・ちがうからできること』（岩崎書店）他多数

■連載■

・Mr.アジアにしゃんたの「東方見聞録」(Yahoo!ニュース)・ニューズウィーク・ハフィントンポスト 他多数

■趣味■ ・コラム執筆・旅行・キャンプ

■特技■ ・落語・読経・空手・日本語

■公式サイト■ ・ <http://nishan.jp>



ちがう”から楽しい。“ちがう”からはじめよう～多様性・ダイバーシティ&インクルージョン～

世界中の大小にかかわらず、どんな場所であっても、重要な課題の一つは、そこにある“ちがい”同士が正しくかわり合うことです。これは少しカタい言葉でいうと、ダイバーシティ&インクルージョン(多様性と包含・包摂)、国際理解・多文化共生、平和・人権やSDGsなどということになります。

私たち一人ひとりが、唯一無二の存在です。命が宿った時から今この瞬間に至るまでの間、たくさんの経験がかけ合わされ、それぞれみんな、顔が違うと同じように、“ちがう”人間なのです。さらには、わたしたちを取り巻く自然環境も人工環境も、昨日と今日ではちがいます。つまり私たち一人ひとりの周りには、“ちがい”しかないということになります。そんな“ちがい”しかない世の中で、私たちが今までもそうだったように、これからも生き、生かされることになります。

今までは見落とししたり、気にとめなかったかもしれない“ちがい”を大いに意識して、大切にしながら生きる時代にきています。偶然の幸運を意味する“セレンディピティ”という言葉があります。まさに“ちがい”を“セレンディピティ”にしながら生きていくことが求められています。

手を伸ばして“ちがい”を楽しもう。“ちがい”を豊かさにかえよう。～国際理解・多文化共生～

私たちは、“ちがい”に囲まれて生きているのだから、“ちがい”を楽しみながら、成長しながら前進することが、正しい生き方ということになります。では、実際にはどうでしょうか。私は、自分の講演会などで、「“ちがい”と聞いて良いことと、悪いことのどちらを連想するか」と質問することがあります。みなさんはどうですか？私の経験では「悪いことを連想する」と答える方が圧倒的に多いのです。

私たちの周りは“ちがい”しかないにもかかわらず、無意識に“ちがい”を敬遠しているのではないのでしょうか。悪気はなくても、無意識に“ちがい”を敬遠するその延長線上で、“ちがい”を警戒したり、怖がったり、嫌ったり、軽視したり、無視したり、アレルギー反応を起こしたりします。さらには無関心になったり、差別や区別したり、非難したり、“ちがい”をめぐる争ったり、殺し合ったりして、相手を、自分や周りまでも傷つけているのです。ですので“ちがい”を敬遠した先にはよい結果を期待できないのです。それよりもせつかくの“ちがい”との出会いを敬遠するようではもったいないのです。“ちがい”を意識的に取り入れて楽しんで成長したいものです。

私にあるもの、あなたにあるもの。“ちがい”が生む新しい“ちから”。～SDGs・サステナビリティ～

世の中で起きている“良いこと”と“よくないこと”について、“ちがい”との関わりとの因果関係を使って説明できます。過去や現状だけでなく、将来についても“ちがい”との関わりを元に予想することもできます。

“共生”という言葉があります。よい言葉ですが、いやおうなく私たちは“ちがい”と共生していることに気づく必要があります。ただ“共に生きる”だけでは、十分ではないのです。“ちがい”との共生を自然に任せると、数の論理などの力学にさらされ、良い結果をもたらさないのです。世界で起きている戦争、環境問題、営業不振から夫婦喧嘩まで、さらには全ての社会悪は、“ちがい”とのかわりを自然に任せた結果なのです。

共生を自然に任せないで理想的な共生をもとめることが大事なのです。“ちがい”同士が、共に楽しみ(共楽)、共に学び(共学)、共に成長し(共育)、共に生き活かされ(共活)、共に笑う(共笑[®])必要があります。“共笑[®]”。私の造語ですが、“ともえ”と読みます。共笑の追求は、一人ひとりがもちろん、どんな組織も、社会や国家などあらゆる空間の永遠の平和、持続可能性、そして発展を求めるための唯一無二の方法であるといえます。

“ちがう”からこそ、心を通わせる。その一歩が未来につながる。～人権・平和～

21世紀は「人権の世紀」といわれます。“共笑[®]”を考える上で人権は大切な柱なのです。1948年に採択された「世界人権宣言」ですが、70年経って“人権”も進化する時期にきていると考えます。

今まで、ほとんどの人にとって、人権は他者のため、自分には関係がない、となっていたと感じます。例えば、私の人権講演会に来て下さる方は、外国人のために役に立ちたいとの尊い思いはあっても、自分にとってのメリットなどは念頭にないのです。相手や他者のためだけという気持ちが、人権の取り組みに対して社会の多数派の腰を重くさせていると推測します。

世界的にも日本ほど丁寧に人権啓発に取り組む国はありません。今までの基本的人権を軸とした活動を続けましょう。でもそこに留まらず、人権は他者のためだけでなく、自分のためでもあるという発想を取り入れましょう。自分がもっていない“ちがい”を知り、束ねることで、強く、やさしく、しなやかに、美しく、豊かになるための「自分の権利」がまさに新しい時代の人権の定義なのです。そうすると、人権も手前よし、相手よし、世間よしの「三方よし」が整い、本当の意味で持続可能な“共笑[®]な人権”として進化するのです。